

NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS
DEGREE SHOW 2023
archive



【特集】

第51回 名古屋芸術大学
卒業・修了制作展 アーカイブ

名古屋
芸術大学
グループ
通信

62
April
2024



名古屋芸術大学グループ

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究科
学部学科：芸術学部 芸術学科 音楽領域 舞台芸術領域 デザイン領域 美術領域 芸術教養領域 教育学部 子ども学科
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園 ■清子幼稚園 ■たきこ幼児園 ■たきこ第二幼児園にいる ■愛知保育園 ■幼児連携型認定こども園 森のくまっこ ■名古屋音楽学校

【特集】

第51回卒業制作展・ 大学院修了制作展

アーカイブ



2024年2月16日(金)～2月25日(日)の間、
本学西キャンパスで
名古屋芸術大学卒業・大学院修了制作展を開催しました。
本特集では、特に優秀だった作品をピックアップ、
キーパーソンコメントと共に、今回で51回目となる
名古屋芸術大学卒業・大学院修了制作展を振り返ります。

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS DEGREE SHOW 2023



第51回卒業制作展・大学院修了制作展を振り返って

芸術学部長/技術センター長/デザイン領域教授 萩原 周

今年度、卒業制作を行った学生は、大学へ入ってすぐ非常事態宣言が発令されオンラインで授業が行われた学生で、その影響が感じられました。講評会に参加していただいた方や卒業生からも、やはりそういった感想が聞かれました。コロナによって強制的に立ち止まらされ、自身の周辺、しかも自分にとっても近い環境への気づき、そうした点に着目する作品が多かったように感じています。その傾向は昨年度も同じでしたし、今後数年間は続くように思いますが、変化も感じました。社会が再生し始めたことを受けてか、外へ向かって社会に押し出そうとするような、ポジティブな作品が増えたように感じました。昨年度、一昨年度は、内側に向き、少し沈んだように静かに考える傾向が強くなっていましたが、そこからまた外の世界に対して発信する視線に向き直った作品が多かったように思います。自己肯定をテーマとする作品も印象的でした。来年度は、さらに社会に対して広がっていくような作品が増えるのではと期待しています。

それから、大学院生の作品、とりわけ留学生の作品にすごく良いものがありました。以前はなんとなく弱々しい学生が多い印象でしたが、変わってきたように感じます。日本で学んでも自分の国のアイデンティティをしっかりと持っていて、その上で日本を観察し、読み取り、編集する、そうした結果のアウトプットとしての作品を制作している。日本的でありつつも、それぞれのアイデンティティが作品の根底にはしっかりとある、どの作品からもそんな印象を受けました。

こうした作品の一方で、今年度は生成AIが大きく進歩した1年でした。創作に対して危機感を持つ学生がいる中で、共存していく、そういったことも少し意識が上がってきていると感じました。それは、作品だけでなく、評価する側へも影響していると感じます。例えば適切かどうかはわかりませんが、ウィリアム・モリスは産業革命で工業化が進むことにより労働の喜びや手仕事の美しさが失われたことを嘆き、「アーツ・アンド・クラフツ運動」が始まりました。そこで

モリスが陶製品の製造について語った際に、機能性や素材の適正使用の重要性と共に、職人の手の跡が残っていることが必要だと説いていますが、そのことを思い出しました。優秀賞の「muratorium machina」(橋本悦司さん)、「KAMIKIRI HOUSE」(大石京汰さん)の作品も、すごく長い時間をかけて手の中で生み出されたものの集積です。生成AIへの反動という単純なことではなく、人間のすごさのようなものを肌で感じられる作品が高い評価を得たように思います。

卒業制作展の会場を愛知県美術館からキャンパスに変え6年目となりました。毎年、来場者数が増加していますが、今年度も増え、6000人を超える数となりました。期間中、天候には恵まれませんでしたが、平日でも多くの方に来場していただきました。楽しみにしていただいているとの声もあり、大学の地域への貢献という意味でも非常に嬉しく、有り難いことだと思っています。



「moratorium machina」

卒業・修了制作展 最優秀賞



アートクリエイターコース
(コミュニケーションアート)

橋本 悦司

“童心”を冷凍保存するためのコールドスリーブマシンというコンセプトの作品。童心と決別し大人になるためのマシンということですが、作品を観た人の心には童心が蘇ります。大人が乗ることができるという作品のスケールの大きさ、そして、どこか愛嬌のある顔立ちからか、誰もが笑顔になる作品です。卒展期間中、100人以上の人が実際にこの作品に乗ってみたいといいます。

「自分が乗ることができるサイズの、大き

いものを作りたいと思っていました。絵でも立体でも、大きな作品は説得力があると感じます。当初は全長6m、高さ3mくらいで2倍ほどのサイズを考えていましたが、場所と予算の都合で、これでも小さくなりました。モラトリアムというテーマは、童心を作品へ置いていきたいというコンセプトだったのですが、今後も制作を続けるとなると結局、子ども心みたいなものが原動力になっているのかなと思ったりします。形としては、3

年生の夏休みにだらけてしまって、ゆっくり休める場所を作りたいと思い、ゆりかごを作ろうと思いつきました。考えてみると、夏休みの宿題ができない子どもみたいですわね」。

卒業後は、アルバイトをしながら制作を続けたいと語ります。

「作品を観てもらいたいという気持ちがあります。いろんな人に観てもらえるように頑張って制作を続けたいと思います」。



「このころの音」

卒業・修了制作展 優秀賞
北名古屋市市長賞
CBC賞
ギャラリーかんしょ賞
後藤紙店賞



日本画コース
大竹 しおり

柔らかな光に包まれた母親と子どもたち、見ていると穏やかな気分になる絵です。描かれている子どもの表情と仕草から、非常によく観察されていることが窺えます。

タイトルの「このころの音(ね)」は、声やモビールが揺れる音、そんな日常の生活音を表しているといいます。部屋のディテールからもモデルがあることを想像させ、伺ってみると、母親は大竹さんのお姉さんで、子ども

は姪なのだそう。モチーフとしては繰り返し描いているもので、時間的な経過も盛り込みたいと右隅にお姉さんのウエディングの写真を描き込んだといいます。

「いつも自分自身の精神性について考えることが多く、そういった時に自分を落ち着かせられたらと思い、姉の家族を描くようになりました。絵を観てくれた人が、自分と同じような気持ちになってくれたら、穏や

かな気持ちになってくれたらなと思います。これまでは子どもを描くことが多かったので、これからは静物や人物以外のモチーフにも挑戦したいと考えており、上手く感情を乗せられたらと思います。」



「KAMIKIRI HOUSE (体験型ミュージアム)」

卒業・修了制作展 優秀賞
北名古屋市教育委員会賞



スペースデザインコース
大石 京汰

膨大な量の板材を組み合わせて作られた体験型のオブジェ。スギやヒノキの害虫であるスギカミキリが作品の起点となったのだそう。カミキリムシが樹木の内部に入る際、不規則に皮の部分を食べて不思議な模様を残します。その模様そのものに惹かれ、また、自由に木を食い荒らすカミキリムシを、4年間自由に木を使って制作してきた自身の姿を重ね合わせ、カミキリの視点で木の中へ

入っていく作品を思いついたといいます。オブジェの中には、これまでに制作した椅子も展示されています。

「素材は、授業でもお世話になった豊田森林組合で丸太を買って、木工房で製材しました。組み立ては2週間ほどでできましたが、材料が揃うまで、製材には4ヶ月以上かかりました。森林組合に『こういう作品を作ります』とカミキリムシを小さなプラ箱に

入れて持っていったら嫌な顔をされました。それくらいの害虫なんです。これまでに作った椅子をグループ展などで何度か展示したことがありますが、空間自体をプロデュースすることがなくて、4年間の締めくくりとして空間まで含めた作品を作ろうと思いました。あの規模の作品を作ることができて満足しています」。



「余想」

卒業・修了制作展 優秀賞
 ブライTON大学賞 グランプリ



ライフスタイルデザインコース
 川部 羽瑠香

日常生活に対して、少しでもスローダウンすることで心に余裕を持たせ、QOLを全般的に高めるよう促す作品。効率化することで失われた部分に価値を見だし、ゆっくりと熟考しながら行動することで質が高められるのではと提案する内容です。

作品タイトルの「余想」は、余白のある心を持つために自分を思う時間の意味。五感に、話すこと、歩くこと、寝ること、創作する

こと、ゆっくりとすることを加え、10の事柄について例示します。ユニークなのはその展示方法。くしゃくしゃにした紙の束からしおり紐を頼りに言葉を見つけ出し、展示されているものを見たり触れたりするインスタレーションになっています。言葉と置かれているもののギャップに、一瞬思考が立ち止まってしまいます。

「作品の形としてはコンセプト提案なので

すが、その提案をインスタレーションで見せるという展示になりました。時間をかけて自分で触って見るという形にしたのは、わかりやすくしてしまうと、私が思っている“ゆっくりものを見る”という考え方に反してしまうと思ったからです。作品自体をゆっくり見ることができ、無意識的に『余想』の時間を与えることができるのではないかと考えました。」



卒業・修了制作展 優秀賞
美濃紙芸賞
ギャラリー MOS賞

郷愁
日本画コース
田口 果歩



卒業・修了制作展 優秀賞
ギャラリーかんしよ賞

春の便り
日本画コース
菅原 寧々



卒業・修了制作展 優秀賞
古川美術館賞
美濃紙芸賞

鬼退治合戦図
大学院 絵画研究 日本画制作
楊 亞舒



卒業・修了制作展 優秀賞

Boyz
イラストレーションコース
増富 清香



卒業・修了制作展 優秀賞
乗さんとんの始まりと歩み

リベラルアーツコース
澤田 朋恵



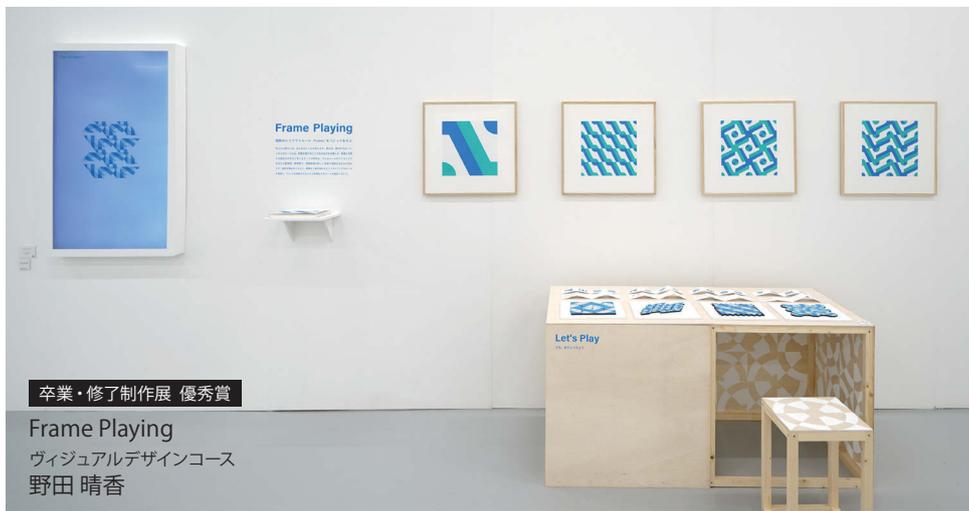
卒業・修了制作展 優秀賞
ひきこもり支援における芸術活用について
—オンライン上での音楽制作を通じた当事者活動—

リベラルアーツコース
白井 智也

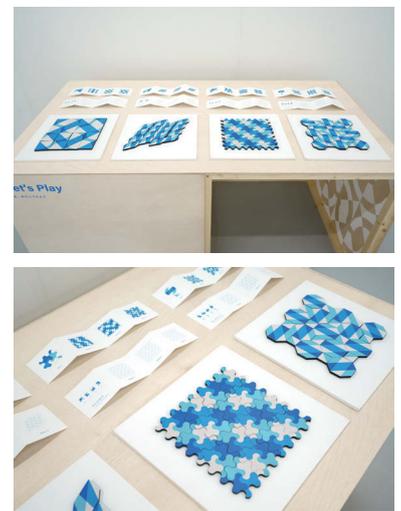


卒業・修了制作展 優秀賞
芸術作品の創作活動によって得られる自己理解と自己受容
—コラージュ制作ワークショップとインタビュー分析から考える—

リベラルアーツコース
大野 涼加



卒業・修了制作展 優秀賞
Frame Playing
ヴィジュアルデザインコース
野田 晴香



ヒトはいろいろ



卒業・修了制作展 優秀賞
ヴィジュアルデザインコース
森 星也



ODyell



卒業・修了制作展 優秀賞
ヴィジュアルデザインコース
鈴木 晴子



学習型体験イベント～博物館×謎解き～



メディアデザインコース
恒川 静香



ケガレからケに ハレプロダクト

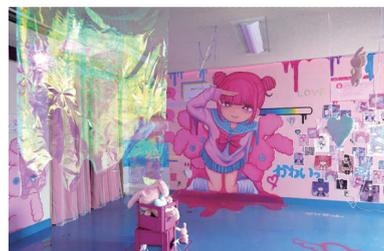


卒業・修了制作展 優秀賞
古川美術館賞
インダストリアル&セラミックデザインコース
良知 恵里花



卒業・修了制作展 優秀賞

永遠のJKへ☆
アートクリエイターコース (版画)
坂田 菜帆



卒業・修了制作展 優秀賞



capreca

カーデザインコース
組谷 凌我



卒業・修了制作展 優秀賞



紡ぐ昭和山道～金華山へ登る柳ヶ瀬商店街～ スペースデザインコース
加藤 遼大



卒業・修了制作展 優秀賞



Dead end Utopia

文芸・ライティングコース
亀井 萌花



卒業・修了制作展 優秀賞



Blind chair

スペースデザインコース
黒木 星治



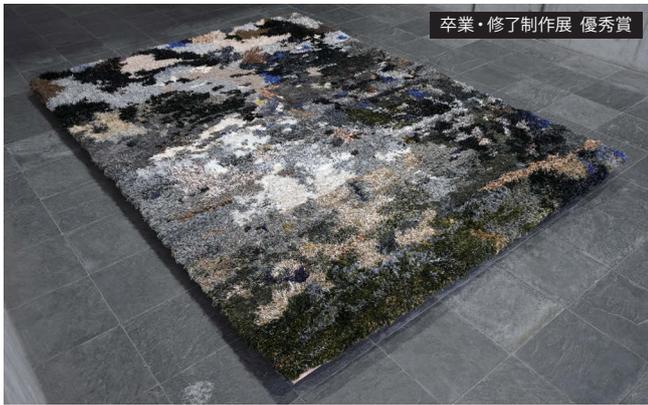
卒業・修了制作展 優秀賞

あめこちゃん
イラストレーションコース
藤田 亜弓



卒業・修了制作展 優秀賞

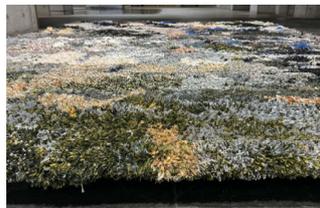
あたりまえを考えたい
メディアデザインコース
榎原 愛生



卒業・修了制作展 優秀賞



剥落



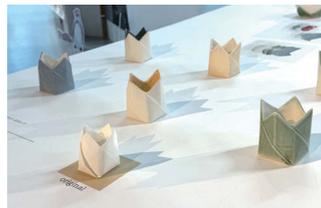
テキスタイルデザインコース
小林 来菜



卒業・修了制作展 優秀賞

ブライTON大学賞 優秀賞

立風賞



陶化紙



インダストリアル&セラミックデザインコース
折笠 舞



卒業・修了制作展 優秀賞

MYMAI
大学院 3Dデザイン研究
余馬 宙帝





プライトン大学賞 佳作
後藤紙店賞
立風賞

おちゃ、お茶
日本画コース
伊藤 歩生



プライトン大学賞 佳作

そこにいるもの
ヴィジュアルデザインコース
松本 日菜子



プライトン大学賞 佳作

Union
イラストレーションコース
中田 爵生



プライトン大学賞 佳作

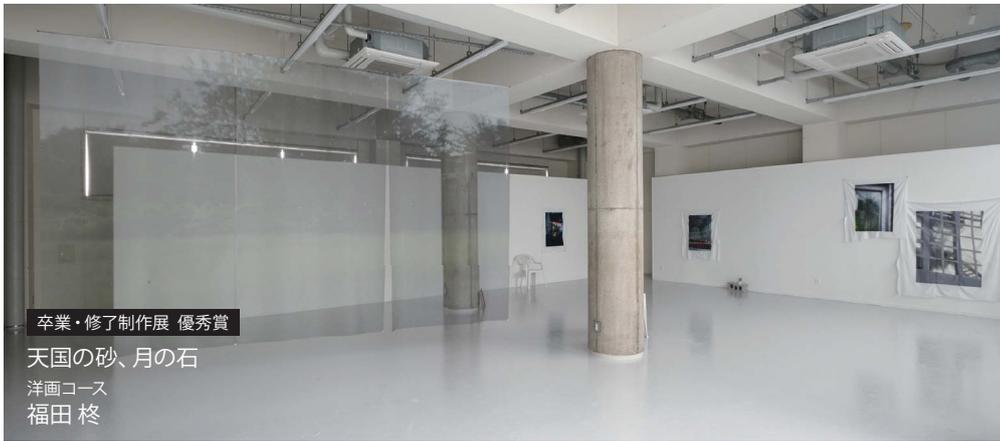
NABIKI CONCEPT
カーデザインコース
小野田 亘佑



プライトン大学賞 佳作

往事渺茫
テキスタイルデザインコース
杉山 春花





卒業・修了制作展 優秀賞

天国の砂、月の石
洋画コース
福田 柊



卒業・修了制作展 優秀賞

arium
テキスタイルデザインコース
折戸 彩香



卒業・修了制作展 優秀賞

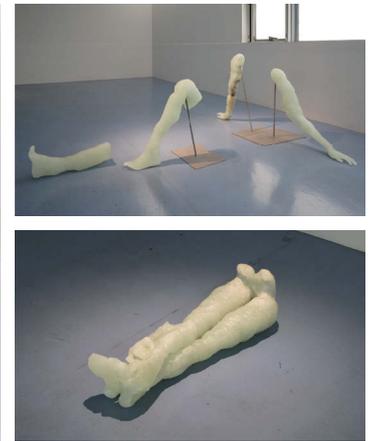
ギャラリーかんしょ賞

さかいめ
洋画コース
村瀬 ひより



卒業・修了制作展 優秀賞

①
洋画コース
松田 直子



卒業・修了制作展 優秀賞

ぬくくてさむい

アートクリエイターコース (陶芸・ガラス)

高木 愛菜



卒業・修了制作展 優秀賞

baked emotion

メディアコミュニケーションデザインコース

野間 陽代里



卒業・修了制作展 優秀賞

TRANSLATION

メディアコミュニケーションデザインコース

炭谷 倫



卒業・修了制作展 優秀賞

海をうつす

メタル&ジュエリーデザインコース

井上 彰悟



ブライTON大学賞 佳作



ブライTON大学賞 奨励賞



一嗅惚れ



文芸・ライティングコース
松野 美夢



IRODORU



イラストレーションコース
尾上 優衣



名古屋芸術大学後援会賞

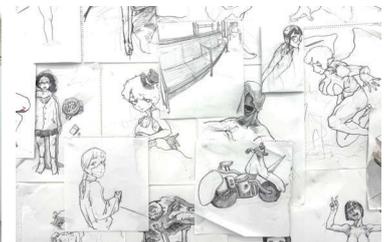
画荘ヴィーナス賞

あの壘をここでかんじる
洋画コース
畑中 未羽



名古屋芸術大学後援会賞

マジで助けてくれ
大学院 同時代表現研究
早川 龍之介





名古屋芸術大学後援会賞

味覚のカタチ

私たちは食べ物を口にする時、味覚だけではなく視覚や聴覚、触覚、嗅覚の五感を使って味を感じています。味覚と他の感覚はお互いに深く関係し合い、特に視覚は味覚の感受性に大きく影響を与えています。形のない感覚である味覚を可視化し「見て味わう」ことができる作品を制作しました。



味覚のカタチ



メディアコミュニケーションデザインコース
安達 真菜



名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞



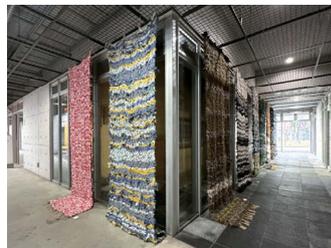
【バトルホビー】インセクトキメラ



インダストリアル&セラミックデザインコース
守屋 龍成



名古屋芸術大学後援会賞
好きの制限
テキスタイルデザインコース
藤川 裕樹



名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞
ニッチな傷の舐め合い

アートクリエイターコース (コミュニケーションアート)
松岡 七海



全作品の閲覧はこちらから

www.nua.ac.jp/group_tsusin/degreeShow51/





EVENT REPORT

第51回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞、第27回ブライトン大学賞 授与式

2024年2月22日(木)、西キャンパスB棟大講義室にて、第51回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞、企業賞、第27回ブライトン大学賞の発表と授与式を行いました。

受賞者の皆様、ノミネートを受けた皆様、本日はおめでとうございます。

コロナ禍という、決して良くない状況の中で大学生活を送られ、その中で研鑽されてこれだけのものを作ることができたことは、皆様の今後の人生を考える上で、貴重な経験になったのではないかと思います。保護者の方々、学内外の関係者、また私たち教職員も、それぞれの立場から工夫を凝らし、コロナ禍の中でも、十分な学びが維持できるように支援できたことが本日の成果につながったのではないかと思います。

現在、この新型コロナウイルス問題だけではなく、多様な価値観と、それともなう社会の分断が世界中に拡大しています。今年度の卒業生は、ちょうど激動

の時代に入ったところで大学生になったともいえます。作品にもそれぞれが持つ多様な価値観が背景にあり、審査をする教員も非常に苦労しました。このような状況の中で、皆さんが各賞に選出されたことの価値を、再度意識していただきたいと思います。

平成30年度より、卒業制作展の会場を愛知県美術館から本学に移して開催するようになり、今年度も大変多くの方々にご来場いただき、作品をご覧いただいております。昨年度は、以前の美術館での開催時よりも多くの来場者にお越しいただきましたが、今年度はそれをさらに上回る見込みです。このような流れを作ることができたことは非常に有り難く、地域社会の皆様にもお礼を申し上げたいと思います。

そして、各賞に協賛していただいた北名古屋様をはじめ、各企業様、後援会、同窓会、大学関係者の皆様に対して、心よりお礼を申し上げます。

さらに、ブライトン大学賞の選考に当たり、ブライトン大学の皆様、お忙しい中審査に当たられたブライトン大学アート&メディア学部長 テイマー・ジェファーズ・マクドナルド先生、アート&メディア学部上級講師 ジェレミー・ラドヴァン先生に感謝の気持ちを述べ、挨拶とさせていただきます。

最後に、受賞者の皆さん、本日の受賞を思い切り喜び、味わってください。

副学長 津田佳紀



EVENT REPORT 名古屋芸術大学ローターアクトクラブが企画 第2回チャリティーオークションを開催

初開催となった昨年度に引き続き、卒業・修了制作展期間中の2024年2月24日(土)、名古屋芸術大学ローターアクトクラブ主催による「名古屋芸術大学 第2回チャリティーオークション」を開催しました。

このチャリティーオークションでは、売上の一部をポリオ根絶を支援するロータリー財団

に寄付しエンドポリオの活動を知ってもらうこと、そして、学生作品を販売することで作品と社会のつながりや作品の市場価値を知ることが目的として企画されています。

寄付金につきましては、公益財団法人ロータリー日本財団を通じ、ポリオ根絶の支援金として寄付させていただきます。

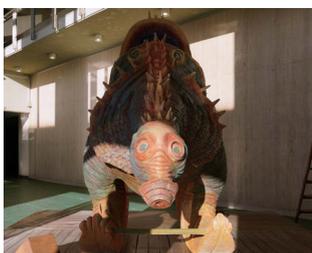


EVENT REPORT OSRIN氏による映像制作特別講義 「GAME CHANGE」講評会を開催

今年度、デザイン領域では特別客員教授に映像作家・アートディレクターのOSRIN氏を迎え、「GAME CHANGE」と題して全4回の特別講義を実施しました。OSRIN氏は、King GnuのMV「白日」をはじめ、米津玄師、Mr.ChildrenのMV、数々のCMを手がけるクリエイター。そのOSRIN氏から直接学ぶことのできる貴重な機

会であり、コースを超えて映像制作に関心のある学生が講義に参加しました。

最後に「楽しいことを仕事にする、これは難しいことに思えますが、楽しいと感じることができればとてもシンプルなこと。自分の道を信じて、ぜひ挑戦して欲しいと思います」と学生たちを応援しました。



表紙の作品
「moratorium machina」
卒業・修了制作展 最優秀賞
アートクリエイターコース
(コミュニケーションアート)
橋本 悦司



発行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン・協力：くまな工房一社
印刷：株式会社クックス
発行：2024年4月
【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369



※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。